



東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター
潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

研究課題(和文): 中華人民共和国初期、草の根世論の外的要因に関する研究

研究課題(英文): A Study about Grass-root Opinion's External Factors in Early People's Republic of China Period.

申請者名・所属先: 河野正 (元・附属図書館アジア研究開発部門 現・国士舘大学 21 世紀アジア学部)

1. 研究の目的

本研究は中華人民共和国成立初期の国家と社会の関係について再考を目指し、その一環として当該時期の草の根世論に対する外的な要因を考察するものである。

2. 研究開始当初の背景

中華人民共和国前後の基層社会や国家と社会との関係は近年関心を集めるテーマであり、様々な研究が行われている。申請者はこれまで、華北と華中華南の地域間比較を視野に入れながら、農村における謠言(噂、デマ)について研究を行った。この過程で、謠言の一因として、アメリカや台湾による対敵宣伝の存在が指摘されていたことに気が付いた。加えて、中国に対する主要な宣伝を担った Voice of America (VOA) 関連史料がアメリカ国立公文書館に所蔵されていることも発見した。そこで、本史料を用いてアメリカによる対中国宣伝と、中国の基層レベルの世論との関連を明らかにすることを考えた。

3. 研究の方法

本研究で主に用いるのは上述のアメリカ国立公文書館所蔵 VOA 関連史料である。この内容は VOA の運営そのものに関するものなど、多岐にわたる。また対象国も中国に限定されたものではなく、東アジアの他地域や東欧など幅広い。そこで本研究では VOA の放送プログラムのうち中国に関連するものに対象を絞ってピックアップし、内容について整理を行った。

この他、申請者はこれまでの研究の過程で、当該時期の中国における地方新聞や檔案と呼ばれる未刊行史料を大量に収集してきた。そのため宣伝内容と、実際の社会の状況を対照することで、宣伝の効果について客観的評価を行うことが可能となる。



4. 研究成果

上述 VOA 関連史料の閲覧・収集のため、2023 年 2 月にアメリカ国立公文書館へ出張を行い、「Research Repts」、「Daily Broadcast Content Reports and Script Translations」などの収集を行った。その過程で、前者の史料からは VOA 側が香港への亡命者などからのインタビューを通じて中国における宣伝の有効性について調査し、放送内容などを検討していたことが明らかになった。また後者の史料からは具体的な宣伝内容を明らかにし、特に 1950 年代前半においては朝鮮戦争の戦況などが盛んに報じられていることを確認した。

本研究は申請者が 2022 年度末をもって東京大学から離れることになったため、研究期間が当初の予定から短縮された。そのためこれらの成果の発表は依然不十分な状態にある。分析を進め、引き続き発信に努めたい。また、研究期間短縮のため、現時点で 1 度のセミナーしか開催していないが、2023 年度中に 2 度目のセミナーを開催予定である。

5. 主な発表論文等

〔図書〕

河野正『村と権力—中華人民共和国初期、華北農村の村落再編』晃洋書房、2023(刊行予定)

〔雑誌論文〕

〔学会発表〕

河野正「農業集団化時期、李翼事件をめぐる一考察」ワークショップ「毛沢東時代の暴力とイデオロギー」(於:京都大学人文科学研究所)、2022 年 12 月

河野正「「噂」から見る中国社会—中華人民共和国初期農村社会における「謠言」」東京大学ヒューマニティーズセンター第 85 回オープンセミナー(オンライン開催)、2023 年 1 月

河野正「「匯編」と統計資料—統計から見る中華人民共和国初期の社会」東洋文庫アカデミア「現代中国の海外流出資料とその活用—『中共重要歴史文献資料匯編』の可能性—」(オンライン開催)2023 年 3 月